



## あさ あめ くさき 朝、雨でもないのになぜ草木がぬれているの

### つゆがついたから

つゆは、地面や地面近くの草木などの表面に、空気中の水蒸気が水のつぶに変わり、水てきになってついたものです。つゆは、春や夏にも見られますが、1年を通して、秋に多く見られます。

つゆができるときは、高気圧におおわれて、風がないよく晴れた日にできます。くもりや風がある日には、ほとんどできません。風がないよく晴れた日の夜から朝にかけて、地面の温度が急に低くなります。すると、地面近くの空気が冷えて、空気中の水蒸気が、水のつぶに変わります。この水のつぶがつゆとなって、地面や地面近くの草木などにつくので、雨が降らないのに、草木がぬれているのです。

### ひ 冷えこみが弱いと、つゆはできにくい

つゆは、丸い形をした、しずくのようなときや、物をぬらしたような状態になるときがあります。

空気にくまれる水蒸気量は、気温によって変わります。気温が高いほど、空気中にふくまれる水蒸気量は多くなっています。よく晴れた風のない日は、昼間は気温が高くなりますが、日がしずむと、急に気温が下がります。気温が下がると、空気中の水蒸気の一部が、つゆになります。

くもっていると、夜の冷えこみが弱く、また、風が強いと、空気がかき回されて冷えこみが弱くなるので、つゆはできにくくなります。（監修・村山 貢司）

